

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 中部大学第一高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒470-0101

愛知県日進市三本木町細廻間 4 2 5

E-mail info@chubu-ichi.ed.jp

Website <http://www.chubu-ichi.ed.jp/>

幼児児童生徒数 男子 899 名 女子 261 名 合計 1160 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、建学の精神「不言実行 あてになる人間」の育成を目指し、ESD をその実践の場と捉え、活動を通して、多様化する社会の発展に貢献できる人材の育成を目標としている。活動は、環境問題・気候変動、生物多様性、国際理解などを中心テーマとして多岐にわたり、①普通科・機械電気システム科での実践と、②部活動 (ESD 部、科学部など) での実践を主に行っている。また、各団体が成果発表を行う③「ESD 大賞」発表会を実施している。

1. 普通科・機械電気システム科における実践

(1) 3 年次総合的な学習の時間

普通科 3 年次の総合的な学習の時間の選択科目に ESD 概論科目を設定している。この講座は特に、課題解決能力や論理的思考力、プレゼン能力の向上を目的としている。グループワークを中心に生態系や防災、世界遺産などをテーマに研究、発表を行った。また、グリーンカーテンの植え付けや管理なども行った。

(2) 普通科特進コースの取り組み

普通科特進コースでは、約20年にわたりフェアトレード活動を行っている。総合的な学習の時間における探求学習、JICA 中部訪問、文化祭におけるフェアトレード商品の委託販売、活動発表を一連の流れとして行い、多面的思考力や世界的視野の涵養を目指した。

(3) 機械電気システム科での取り組み

技術者として社会から求められる人材の育成を目指し、課題研究などを通してものづくりの基盤の構築を行っている。愛知県日進市のイベントにおいて、ロケットやレゴロボットなどを利用したワークショップを実施した。また、埼玉大学 STEM 教育研究センターより講師の先生を招き、3回にわたり特別授業を行った。

2. ESD 部の取り組み

愛知県日進市環境課、一般社団法人環境創造研究センター、中部大学と連携しながら、地球温暖化対策の一環である「COOL CHOICE」プロジェクトを実施し、地域の小学生とのワークショップを行っている。この教育活動を通して、主体的に考え、行動する力を養っている。

3. ESD 大賞発表会

本校で ESD 活動に取り組む生徒、団体が成果発表を行う発表会を実施した。今年度は8団体が活動発表を行った。



COOL CHOICE ワークショップ



愛知県ユネスコスクール交流会



JICA 訪問



ESD 大賞発表会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

COOL CHOICE : https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/ JICA : https://www.jica.go.jp

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのよう

に位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、各教科のシラバスに持続可能な社会づくりの6つの構成概念と学習指導で重視する7つの能力を明記し、各教科各単元を通して、7能力の向上を目標としてきた。年度末には、各教科のESD実践についてレポート提出を行い、次年度の指導内容へのフィードバックとしている。今年度は、新学習指導要領の内容も見据えながら、各教科で実践できるSDGsの視点を考察し、来年度以降の授業展開の見直しを行った。また、3年次の総合的な学習の時間の選択科目の一つとして、ESD概論科目を設定している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

ESDコーディネーターを中心とする「一高ESD委員会」を組織し、関係部署と調整をしながら学校全体のESD運営を行っている。委員会のメンバーには教務主任を始め、主要教科のESD担当者を含めることで、教育課程におけるESD実践の運営を円滑にしている。また、「ESD大賞」発表会を年に一度実施しており、生徒間においても主体的な発信と意見交換ができる場を設けている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

学校内においては、各教科のシラバスにESD目標を明示しているため、年度末に各教科のESD実践についてレポート提出を行っている。現状の展開では、到達目標がわかりにくいということが考えられるため、今後はSDGsを授業に位置づけ、ESD目標をより具体化した授業を展開する必要がある。

学校外では、交流会や地域のイベントに積極的に参加し、生徒が自身の活動を振り返る機会を増やし、次なる発展へとつなげている。また、そのような機会に地域住民からは、本校の活動を他の場所でも展開してほしいという声も頂くことができたため、どのような連携ができるかを検討することが現在の課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

校内外において、本校の活動内容を紹介する ESD 通信を発行している。ESD 通信は、学校内だけでなく、本校ホームページでも配信を行っている。また、ユネスコスクール交流会や活動成果発表会、地域でのイベントでは、活動発表と共に、パネル展示やワークショップを行うことで、参加者と交流型での意見交換を行う機会を持っている。このような取り組みを通して、関係諸団体との連携が増えてきたように思われる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

近年の活動においては、学校が位置する日進市との連携を意識しながら進めている。特に、ESD部の活動では日進市環境課と環境創造研究センター、中部大学と連携しながら市内の小学生や関係諸団体と活動にあたることができた。

また、ユネスコ世界寺子屋運動では名古屋国際センターに、フェアトレード活動では名古屋市内のフェアトレードショップに協力を仰ぐことで、発展的な活動が可能になっている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度は、愛知県ユネスコスクール交流会、ESD愛知コンソーシアム主催ユネスコスクール成果発表会などにおいて、活動発表やワークショップを行った。小学校や中学校など、異なる世代における交流は、普段とは異なる視点からの意見交換ができるため、大変貴重な場となっている。国外のユネスコスクールとの交流については現在検討中である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調した

- い) 内容 (例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化) (200字程度)
※チェック事項 2-5 に対応

グループワークやプレゼンテーションの機会が増え、生徒の多角的に考える力や自身の意見を論理的に述べる力、自ら考え行動する力が高まってきたように感じる。探究的な授業展開も一部の授業では実施しているが、そのことも上記の要因の一つであると考えられる。

市の行政との連携も密になり、活動を共にするようになったことで、地域住民との意見交流の場も増えた。それにより、地域の抱える問題などが具体化されてきたため、活動の中で、それが強く意識されるようになった。

(3) 平成 30 年度の活動計画 (200~400字程度)

活動の発展に向けての活動計画は以下の通りである。

(1) 新 1 年生対象の各科目に SDGs を具体的な授業目標として位置づける。そこから ESD カレンダーを作成し、総合的な学習の時間を中心とした教科横断授業の展開を行う。これに伴い、普通科の総合的な学習の時間を「ESD 探究」の時間として位置づけ、生徒の主体的探究活動を通して、思考力や表現力、協同性を養いたい。

(2) 本校で積極的に ESD に取り組む生徒、団体が発表し、意見交換を行っている「ESD 大賞」発表会を、全校行事として実施する。